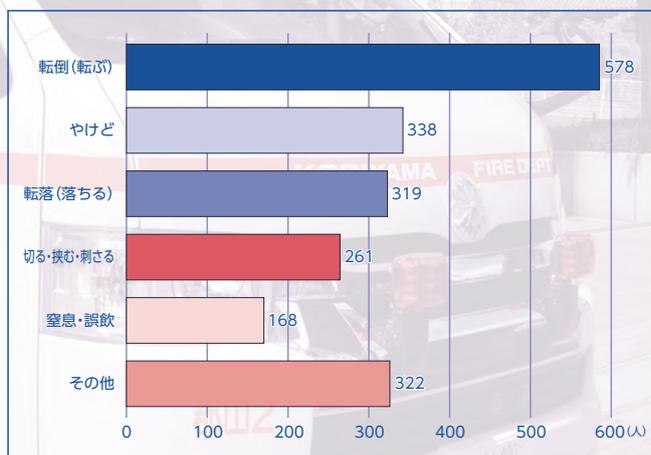
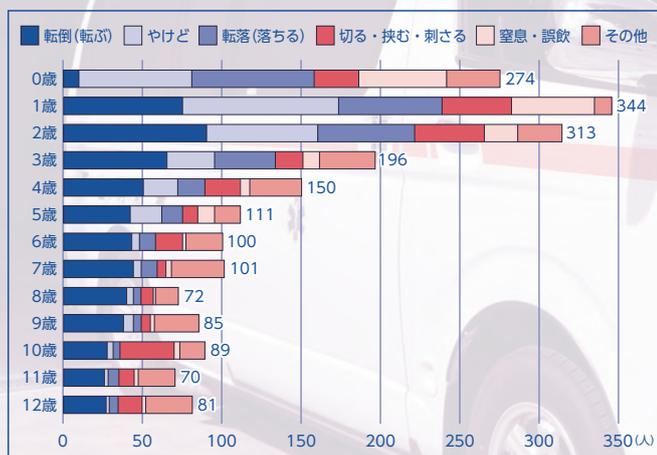


子どもの事故を予防しよう！

郡山地方広域消防組合管内では、家庭内など身の回りで起きる事故により、0歳から12歳までの子どもが過去10年間(2011年～2020年)に約2,000人救急車で搬送されています。

内容別にみると最も多いのが「転倒」、次に「やけど」、「転落」と続きます。今回は、特に3歳以下の子どもに多く発生している「窒息・誤飲」についてお伝えします。



子どもの窒息・誤飲

郡山地方広域消防組合管内では、窒息や誤飲の事故により、毎年多くの子どもが救急搬送されています。

年齢別にみると、特に3歳以下で多く発生しています。子どもは、生後6か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」というような行動が見られるようになります。トイレトペーパーの芯を通る大きさの物であれば、口の中に入れてしまい、飲み込んでしまうおそれがあるため、周りの大人の注意が必要です。

飲み込んでしまうもので多いのは**食品**が最も多く、その他には**玩具**、**タバコ**、**薬品**など様々です。

中でも、**ボタン電池**や**灯油**、**オイル類**は、身体の組織を破壊したり肺炎を引き起こす危険があります。

日頃から、何が危険なのかを知り、置き場などに注意しましょう。



救急搬送された事例

■パンをつまらせ・・・

自宅でパンを食べている最中につまらせ、白目をむき苦しんでいたため救急要請。(1歳児・中等症)



■タバコの入った灰皿の水を・・・

居間のテーブル上の灰皿に入った水を飲んでしまったため救急要請。(0歳児・中等症)



■ボタン電池の誤飲・・・

自宅で、ボタン電池を飲み込んでしまったため救急要請。(0歳児・中等症)



※中等症とは、生命に危険はないが、入院が必要なもの

事故防止のポイント

●食べ物は年齢に応じた大きさや形状にして食べさせる

成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶすなどして食べさせましょう。歩きながらや寝ながら食べさせることはやめましょう。

●部屋の整理整頓を心がける

子どもがゴミや玩具を飲み込まないように、日頃から部屋の整理整頓を心がげましょう。

●薬、電池、タバコなどは、子どもの目に触れない場所にしまっておく。

家の中は、子どもの目線の高さで危険がないかなど確認しましょう。



窒息や誤飲が疑われるときは、すぐに病院を受診するか119番で救急車を呼んでください!!

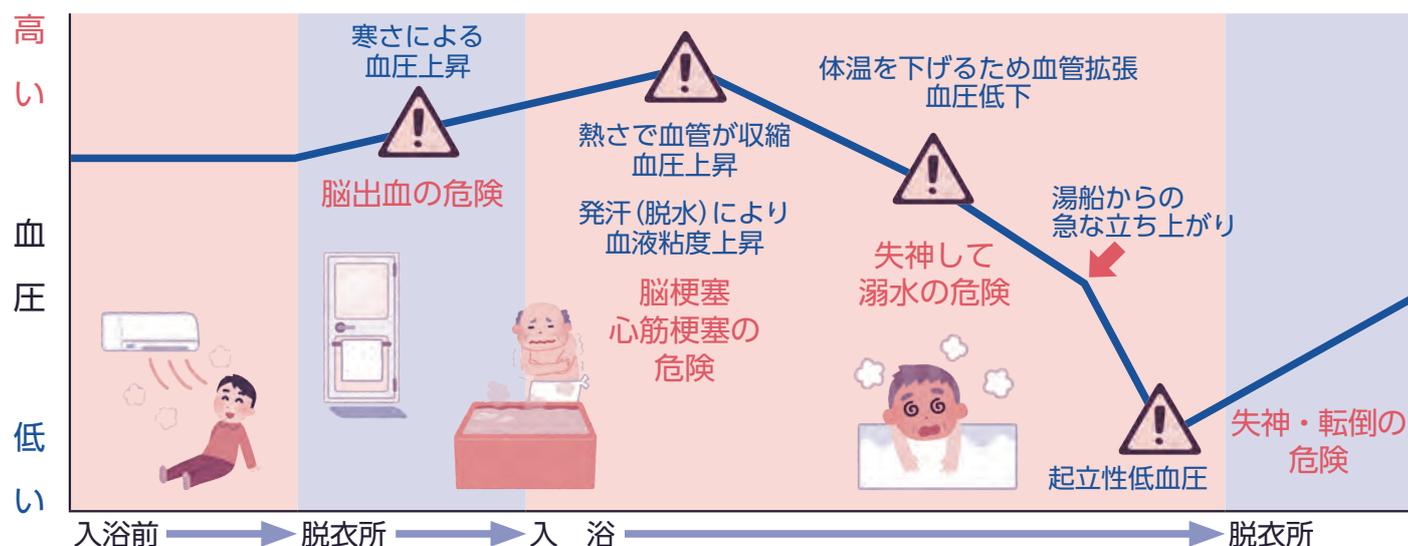
秋から冬にかけての入浴中の事故 ヒートショックに気をつけよう！

ヒートショックとは、暖かい部屋から寒い部屋への移動など温度の急激な変化が身体に与える影響の事です。気温が低下する秋から冬にかけての入浴中の事故は、このヒートショックによって血圧が大きく変動することが要因の一つとされています。消費者庁によると、近年、高齢者の入浴中の事故が増加傾向にあります。

下の図は寒い時季の入浴によって、血圧がどのように変化するかを示しています。

暖かい部屋から脱衣所へ移動すると、寒さで血管が縮んで血圧が上昇します。さらに急激に熱いお湯に浸かることで反射が起こりさらに血圧が上昇します。

その後は、身体が温まって体温を下げるために血管が広がり、血圧が低下します。浴槽から急に立ち上がると、さらに血圧が下がって失神することがあり溺れたり転倒のリスクがあります。



特に注意が必要なのはどんな人？

- 65歳以上の高齢者
- 高血圧の人
- 動脈硬化のある人
- 肥満気味の人
- 飲酒後に入浴する習慣がある人
- 熱いお風呂が好きな人
- など

ヒートショック予防のポイント

①部屋の温度差を小さくする



②お風呂のお湯は41℃以下で

③かけ湯やシャワーで
ゆっくり身体を暖める



④浴槽から急に立ち上がらない

⑤飲酒後は
入浴しない



⑥入浴前後に
水分補給



⑦入浴時は家族へ
ひと声かける



脱衣所を電気ストーブで温める際は、衣類等との接触や洗面台・タップの
定格容量(〇〇〇ワットまで)をよく確認し、火災を予防しましょう。

